

OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第263号 2020年2月10日

OCHADAI GAZETTE Spring, 2020



教育と平和：女子教育が担う世界の未来

CONTENTS

TOPICS

- | | |
|---|---|
| 学長からのメッセージ 1-2
緒方貞子さんのご逝去を悼む | 附属学校園からのお知らせ 7-8 |
| 学生のアクティビティ 3-4
サークル特集2020 | キャンパス点描 9-10 |
| 教員紹介 5
● 本林 響子先生
(グローバルリーダーシップ研究所 助教) | ● 女性が輝くTOKYO懇話会「ガラスの天井を打ち
破れ!～女性も男性も輝く未来へ～」開催報告
● 海外の政府視察団が附属幼稚園を訪問しました
● JICA課題別研修「乳幼児ケアと就学前教育
(アフリカ・中東)」を実施しました
● 2019年度学生表彰式を開催しました |
| 卒業生紹介 6
● 中西 奈美さん
(理学部化学科卒業) | |



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

学長からのメッセージ



緒方貞子さんの ご逝去を悼む

2019年10月22日に、1991年から10年間に亘って第8代国連難民高等弁務官 (UNHCR) を務められた、本学名誉博士の緒方貞子さんがご逝去されました。在りし日のお姿を偲びつつ、謹んで哀悼の意を表すと共に、ご遺族の皆さまに心からお悔やみを申し上げます。

緒方貞子さんは、1951年に聖心女子大学をご卒業後、ジョージタウン大学で国際関係論修士号を、カリフォルニア大学バークレー校で政治学博士号を取得され、その後、国際基督教大学や上智大学で教鞭を執られると共に、国連日本政府代表部公使および特命全権公使、国連人權委員会政府代表、人間の安全保障委員会共同議長、アフガニスタン復興支援総理特別代表、人間の安全保障諮問委員会委員長、独立行政法人国際協力機構 (JICA) 理事長・同特別顧問などを歴任され、国際社会の平和のために多大な貢献と活躍をされた、わが国が世界に誇る素晴らしい女性です。本学では、2002年に、緒方さんに名誉博士号を授与させて頂いています。

お茶の水女子大学における名誉博士号制度は、優れた専門的業績において、学術文化の発展に寄与し、且つ本学が志向する女子教育・女性研究者の育成に貢献した方を称え、更なる貢献を支援することを目的として、2002年度に創設されました。そして、その第一号授与者として、緒方貞子さんをお選びさせて頂いたのです (これまでの授与者は右表の通りです)。

■ 名誉博士称号授与者一覧 (敬称略)

授与 No.	氏名	年月	国籍
1	おがた さだこ 緒方 貞子	2002.7	日本
2	Christiane Nüsslein-Volhard クリスティアーネ・ ニュスライン＝フォルハルト	2002.7	ドイツ
3	やなぎさわ けいこ 柳澤 桂子	2002.7	日本
4	Julia Carabias Lillo フーリャ・カラビアス・リジョ	2004.10	メキシコ
5	ふかい(たかはし) あきこ 深井(高橋) 晃子	2004.10	日本
6	Wangari Maathai ワンガリ・マータイ	2005.2	ケニア
7	かんだ みちこ 神田 道子	2005.10	日本
8	Pierre-Gilles de Gennes ピエール＝ジル・ドゥジェンヌ	2006.4	フランス
9	Miriam K.Were ミリアム ウェレ	2011.2	ケニア
10	とやま あつこ 遠山 敦子	2015.7	日本
11	なかたに よういち 中谷 陽一	2015.7	日本
12	Marie-Claire LETT マリー＝クレール レット	2015.7	フランス

学生のアクティビティ

サークル特

お茶の水女子
公認課外活動団体が49団体
あり、それぞれ活発に活動して
写真部の皆さんにお話

◆基礎データ

部員…… 9人
活動…… 火・木18:30~20:00
場所…… 体育館

◆年間スケジュール

4月 …… 新歓
8月 …… 支部合宿
10月 …… 秋季大会
11月 …… 徽音祭パフォーマンス
1月 …… 新年会
3月 …… 支部合宿

空手部



Q1. 空手部の活動を紹介します。

空手には対人で行う「組手」と、決められた動きをどれだけ強く、綺麗にこなすことができるかを競う「型」がありますが、お茶大空手部では両方の練習を行っています。普段は週2回練習をしていて、OGの方にコーチとして来ていただいているのと、外部の先生に隔週くらいで教えていただいています。また、流派の合同合宿が年に1~2回、お茶大のみの支部合宿が年2回ありますが、特に支部合宿が楽しいですね。集中的に練習に打ち込むことができるので、そこで技術力が上がると感じています。

Q2. 入部のきっかけを教えてください。

運動系のサークルに入りたいと思っていたのですが、見学に行ったときに先輩が型を披露していてそれがすごくかっこよかったので空手部に決めました。あと、私は徽音祭実行委員もやりたいと思っていたので、両立できるような活動頻度であることも決め手になりました。

Q3. 空手の魅力はなんですか。

空手は突き・蹴りだけではなく、自分の体の使い方や身の守り方、心の持ち方を意識して行います。そうして身につけた技術面や精神面のおかげもあって、大学生になって夜遅くに外を歩くことも増えたんですが、もし危険な目にあっても自分だったらこう対処する、逃げることができるという自信ができたかなと思います。

あと、「やってみせて!」と言われて型を披露できる、というのは空手の良さかなと思います。実は型って全力でやるとす

ごく疲れるんです。体を大きく動かすというものじゃなくても、拳に力を含める・相手をにらみつけるといった動作でも、インナーマッスルを使っている感じで疲れます。怪我が少ないけどちゃんと運動になるのは空手の型の魅力だなと思います。

Q4. 空手部のアピールポイントを教えてください。

今いるメンバーは全員初心者で、大学から空手を始めました。中には運動系の部活をやったことなかった人もいますが、いきなりミットを突くのではなく、体の動かし方から教えてもらえるので初心者でも大丈夫です。初心者から始めた人でも2年生の終わり頃に昇段審査で合格すると黒帯をとれるので、黒帯取得に向けて日々練習に励んでいます。

留学する場合など長期にわたって休部することも可能で、他の活動と両立しやすいですね。私自身、徽音祭実行委員を兼ねており、その期間は休みながら続けてきました。

あと、OGを含めて先輩・後輩の仲が良いです!

Q5. 今後の目標を教えてください。

部員が黒帯をとれるよう、昇級昇進が目標です。後輩の指導を頑張っていきます。

あと、部員を募集中です!いつでも入部可能で、3年から始めた方もいます。見学もお待ちしております!



インタビュー協力
生活科学部人間生活学科3年
関口由夏

部員募集中!
見学お待ちしております!

集2020

大学には
(文化系32、体育系17)
います。今回は空手部と
を聞いてきました。

写真部



◆基礎データ

部員…… 13人
活動…… 不定期
場所…… 学校・東京近郊など

◆年間スケジュール

4月 …… 新入生向け
「お茶大を撮ろうツアー」
6月 …… 新人展
8-9月 …… 夏合宿
11月 …… 微音祭展示
2-3月 …… 春合宿
その他に、数ヶ月に1回東京近郊で
撮影会を行います。

三瓶
さん



河上
さん



Q1. 写真部の活動を紹介してください。

定期的な集まりはありませんが、撮影会や合宿を行い、部員たちと一緒に様々な場所へ写真を撮りにいきます。昨年は合宿で大分や函館に、撮影会で横浜や東京ドームシティなどに行きました。合宿の写真はフォトブックにし、そのフォトブックや部員が色々な場所で撮った作品を微音祭で展示するのがメインイベントです。ほかには、新入生が写真部の活動を体験できる「お茶大を撮ろうツアー」を行ったり、新入生の作品がメインの新人展を開催したりしています。新人展や微音祭展示ではコーチに作品の講評をしていただきます。活動には専用のカメラが必須というわけではなく、スマートフォンで活動する部員もいます！

Q2. 入部のきっかけを教えてください。

三瓶 写真に興味がありながらもカメラや知識がなかったので迷っていたところ、サークルオリエンテーションの時に先輩が「カメラがなくても初心者でも大歓迎です」と言ってくださったのがきっかけです。

河上 「お茶大を撮ろうツアー」に参加したのがきっかけでした。その頃まだ見慣れなかったお茶大の構内をカメラ片手にゆっくりと歩きながら、自分が素敵だと思うコマを写真におさめていく楽しさを実感しました。

Q3. 写真の魅力はなんですか。

三瓶 色々ありますが、「素敵だ」と感じたものを他者と共有できるところが魅力の1つだと思います。自分が見たものをどう撮れば魅力的になるのか、試行錯誤するのも楽しいです。撮るだけでなく、ソフトで編集して「作品」にしていく過程も面白いです。

河上 同じ一枚の写真でも見る人によって想起するイメージや感じる思いが異なることです。作品を見た人は、撮影者が伝えたいメッセージを受けとるだけでなく、時にそれを飛び越えて新たなメッセージを思い浮かべることもあるので、作品を通じたやりとりはとても面白く、不思議なことだと感じます。

Q4. 写真部のアピールポイントを教えてください。

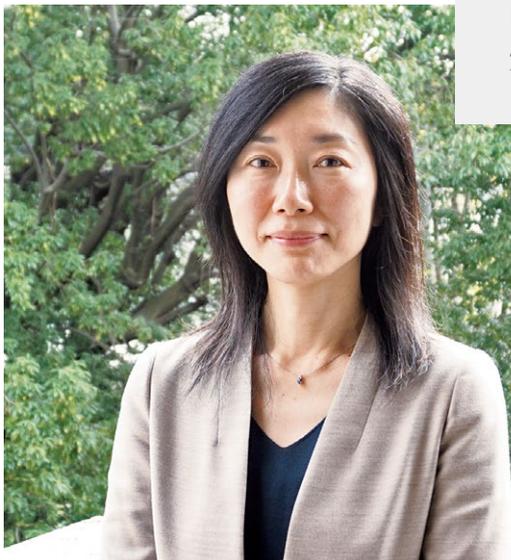
写真に詳しくなくても(むしろ初心者の方が多くいるので)問題なく活動できますし、撮影会や合宿は自由参加なのでサークル・部活を掛け持ちしていても両立できます！スマートフォンで活動する人もいれば、あとから一眼レフカメラを購入して活動する人もいる自由な雰囲気も良いです。それから、遠くへ旅行して写真を撮りたいけど自分ではなかなか計画できない、1人だと不安だし大変そうだしな、と思う人がみんなと一緒に相談して遠方に旅行することができるのも写真部のさりげない魅力だと思います。

Q5. 今後の目標を教えてください。

写真という難しいイメージもありますが、今後も部員みんなでゆるく楽しく活動していきたいです。写真へのハードルは低いままに、部員たちが活動のなかで写真への興味をさらに深めていけるような部活にしていけたら良いと思います。

インタビュー協力
生活科学部人間生活学科2年 三瓶 夏緒子
生活科学部人間生活学科1年 河上 美紀

教員紹介



今回は、グローバルリーダーシップ研究所の本林響子先生をご紹介します。本林先生のご所属は、学部では文教育学部言語文化学科、大学院では比較社会文化学専攻日本語教育コースです。

人の国際移動という現象を中心に、
言葉と社会について考えています

Kyoko Motobayashi
本林 響子

R1 ご経歴についてお聞かせください。

私はお茶大の卒業生で、学部では文教育学部の日本語・日本文学コースで勉強し、大学院では日本語教育の修士課程を修了しました。その後カナダのトロント大学に留学し、修士号と博士号を取得して、2015年の夏に帰国してお茶大に着任しました。

学部時代は中世文学のゼミにいたのですが、大学3年生の夏に文部科学省のインターンシップに参加し、それをきっかけに現在の研究分野に関心を持ち始めました。大学院で勉強するうちに、修士論文で扱ったバイリンガル教育の理論に特に興味を惹かれまして、それがカナダのトロント大学の先生が提唱されたものとわかり、思い切ってトロント大学に留学することにしました。

トロント大学では、分野を牽引する先生方が研究を「論文化」する前のダイナミックで生き生きとした議論に触れられる喜びが大きく、「今、目の前で次々と『知』が紡ぎ出されている」という感慨を何度も持ちました。指導教官にも大変恵まれて、色々な意味で大きく影響を受けたと感じています。

R2 どのような研究をなさっているのですか。なぜそのような研究をされているのでしょうか。

専門は社会言語学という分野ですが、特に相互行為とそれを取り巻く社会的文脈の関係性に関心を持っています。人が言葉を使ってどのように「意味」と「しくみ」を作り上げているのか、ということですが、ミクロな相互行為とマクロな社会制度の双方に着目して研究しています。

特に関心があるのは「人の国際移動」という文脈に関連する言語の問題です。現在、言語的他者との出会いの場面、いわゆる「接触場面」における意味の構築やそれを取り巻く社会制度について研究しています。その場面では複数の言語が飛び交うことも多いですし、使用する言語の種類自体が社会的な意味を持つこともあります。複数の言語があれば力関係も存在しますし、そこに至る歴史性もある。バイリンガルリズムや言語の切り替えが社会的な意味合いを持つことも多く、過去の関心ともつながっていて、大変興味深く感じています。

R3 カナダに留学されていたことですが、カナダでの生活はいかがでしたか。

トロント大学で過ごした時間は自分の財産で、得たものは計り知れません。研究については、世界中から優秀な方が集まっていたとても刺激的な場所で、20代から30代にかけてトロントで勉強に没頭できたことは、大変幸せだったと思っています。

博士課程在籍中に、トロントで上の子を出産したのですが、子どもを通して社会とのつながりが非常に豊かになったのも良かったと思っています。博士課程の同期には同じくらいの歳の子どもがいる人も多く、助け合っていました。みな大学院生で、集まるとつい研究の話になり、子どもを抱っこしながら論文の話をしたり。同じ頃に博士号を取得していて、今でも学会などで会いますし、よき仲間という感じがします。

R4 お茶大に戻っていらして、お茶大生にどのような印象を持たれましたか。また学生のみなさんへのメッセージをお願いします。

お茶大に教員として着任して、そうそうこんな感じだったと懐かしく思うことも多くありました。授業でも、思慮深く丁寧で上品な雰囲気醸しつつ、鋭い視点で切り込んでくれるという、多面的な面白さは変わらないと思います。

大学時代は色々な人と出会い、多様な経験ができる貴重な時期だと思います。いろいろなものに触れ、吸収しようとしているうちに、自分らしい視点や独自性が生まれるのではないかなと思います。その原動力となるのは好奇心だと思いますので、皆さんも好奇心に蓋をせず、色々なことに挑戦してほしいと思います。

そして、自分が夢中になれるもの、自分の軸となるようなものを見つけてほしいですね。私の場合は高校卒業の頃から、言葉に関わる仕事をしていくのかなと思っていましたが、結局これまで言葉というものから離れることがありませんでした。学ぶほどに奥深さが分かり、学ぶべきこと、考えるべきことは尽きないと感じています。同時に最近では、あるテーマを深めることで他のことにも応用がきき、対話が広がったりすることを実感しています。皆さんも是非、自分の軸となるものについて考えてみてください。

文責：基幹研究院人文科学系准教授
山腰 京子



Nami Nakanishi
中西 奈美

日経BP
デジタルコンテンツ局
デジタル編集部

千葉県出身 | 2003年3月 お茶の水女子大学理学部化学科卒業
2003年4月 日経BP 入社



仕事と家庭との両立。

私なりの最適解を考えています。

R1 お茶大での学生生活は、現在の仕事にどう生きていますか。

理系学部のカリキュラムは、実験(実習)やレポート作成で拘束時間が長くなりがちですが、その合間を縫って、さまざまなアルバイトをしたり、講演会に参加したりしていました。資格試験の勉強にも取り組みました。

そんな大学時代に、実験やレポートをまとめる「アウトプット」と、講演会への参加などの「インプット」のどちらも楽しめる特性が培われたと感じています。アウトプットの過程は、もやもやとしたツライ時間なのですが……、終わってみると「次は何をしようかな」と考えてしまいます。

今の仕事ともリンクしますが、自分のアウトプット、特に「考えをまとめ伝えること」「表現を工夫すること」に心から満足したことはなく、きつと終わりはしないでしょう。だからこそ、自分はまだ成長できる=楽しいと思えるのかもしれません。

R2 現在のお仕事に就くまでの経緯を教えてください。

4年生になる2002年春に就職活動をして、本命の日経BPに入社しました。就活中はそれまでの自分の活動や特性について棚卸し、「働くこと」について考えるいい機会でした。

志望企業を決める上で、譲れなかった条件は「文系・理系関係なく活躍できる職種、男女ともに続けられる仕事」。多くの人に会い、学び続けられるマスコミはとても魅力的でした。中でも、取材内容をじっくりと分析し、深掘りした記事を提供する専門誌に憧れ、雑誌記者になりたいと、出版社にばかりエントリーしました。

日経BPは、エンターテインメントやライフスタイルに関する月刊誌のほか、コンピュータから医療に至る幅広い分野の専門誌を出しています。同じ社内異なる専門知識を持った記者が多くいることも、刺激的でワクワクする職場です。

入社後は、『日経メディカル』という医師向けの雑誌に配属されました。チューターの先輩に、社会人としての立ち居振る舞いや、記者としてのノウハウを教わりながら、取材・執筆でトライ・アンド・エラーを繰り返しました。

入社から17年の間に、ニューズレター『日経バイオテク』、薬剤師向け月刊誌『日経ドラッグインフォメーション』、一般向け健康サイト『日経Gooday(グッデイ)』、女性健康誌『日経ヘルス』などの編集部を転々となりました。記者や編集者に加え、新規媒体の立ち上げなどにも関わってきました。2019年の春から、SNSを活用してコンテンツを売り込む「デジタル編集部」に所属しています。

R3 現在のお仕事内容を教えてください。

デジタル編集部は、現場で身につけた記者の土地勘と、雑誌編集で培われたコンテンツ力を生かして、記事をおすすめしています。書店のPOP(ポップ)をSNS上で展開すること、と私はよく例えています。

スマートフォンが普及し、いつでもどこでもネット上の情報にアクセスすることが可能になりました。一方でどの情報にアクセスしたらいいか、情報の波にもまれて遭難してしまう人も少なくありません。必要な人に必要な情報を届けるために、SNS上の少ない文字数にいつも“おせっかい”を込めています。いいね!やシェア(リツイート)などのアクションが起こると、誰かの役に立ったのかもしれないと、ちょっとだけ嬉しくなります。

記者を志望して入社したので、記事を書く現場から離れても寂しくない……といえば、ウソになります。ただ今は私にとって仕事と家庭の両立が非常に大切な局面を迎えており、現場で長時間働くのが難しくなっていました。というのも、8歳になる長男は自閉傾向があり、公立小学校の特別支援学級に通っています。彼なりの特性を理解し、成長を促す環境を提供する

ために、母親としての情報収集や学びは欠かせません。彼もまた、ダイバーシティという新しい世界を教えてくれる大切な存在です。

その延長線上で、地域の活動にも積極的に参加しています。障がいのある子どもだからといって閉じ込めておかず、外との接点を持たせたいとの考えがベースにあるからです。長男本人への刺激もありますが、周りの人々からも病気を理解してもらえているように感じています。昨年度は子供会の会長を務め、多くのお母さん・お父さんとの交流がありました。自分の近いところから、世の中が少しずつ変わっていかばいいな、と思っています。

R4 在学生へのアドバイス・メッセージをお願いします。

私が在籍していた理学部化学科は、大学院へ進学する人、化学の知識を生かした専門職に就く人が多いので、マスコミを志望した自分は“はみ出し者”だったかもしれません。でも、これまでに一度も、マスコミを選んだことを後悔していません。

大学時代は、人生最後の「何にも染まらない自分」でいられる時間かもしれません。歳を取るほど、世間からも周りからも求められるものが多くなります。なので、時間を見つけていろんな世界を見てほしいと思います。

オトナになった先輩たちはずるくて、いかにも簡単に成功したような話をするがありますが、初めからうまくできる人なんてほとんどいません。失敗したっていいんです。挫折も失敗も、将来の笑い話にしてやりましょう!

文責：基幹研究院自然科学系教授 森 義仁

わたしのオフタイム

夏から家族に加わった、愛犬「ふうちゃん」と遊ぶ時間は私の癒しです。遊びたい盛りの子犬相手に、私も無心になって遊びます。

附属学校園からの お知らせ

～附属中学校だより～

附属中学校では「自主自律の精神をもち、広い視野にたって行動する生徒を育成する」ということを学校教育目標に掲げ、授業や様々な行事等に取り組んでいます。今年度、これまで実施した各学年の取り組みを紹介いたします。



1年生

グローバル・キャンプ

第1学年では、6月にグローバル・キャンプを行いました。研修場所へ向かうバスの中から、外国人講師の先生による様々なアクティビティで大変盛り上がり、昼食も講師の先生と一緒にテーブルを囲んで会話を楽しむことができました。午後からはよいよレッスン開始。緊張感もなく、自然にグループごとに教室へ。ほどなく各教室から楽しそうな声が聞こえてきました。どのレッスン中も各教室から聞こえてくる歓声が途切れることがないくらい、講師の先生とうちとけ、英語に親しんでいる様子うかがえました。

2日の見せ場は、英語劇の発表です。「三匹の子ぶた」のストーリーに、班のメンバーと協力してアレンジを加え、堂々と発表することができました。登場人物の設定を変えたり、セリフも新しくつくったりと、より効果的に見せるために一生懸命考えている様子うかがえました。英語を本格的に学び始めてまだ2か月にすぎないことに外国人講師の先生方が一様に驚かれるほど、一人ひとりが積極的に取り組んだ成果だと思います。2日間の研修を通して、今まで以上に英語を使うことに自信を持

2年生

総合的な学習の 時間の取り組み

2年生の総合の時間では1学期に林間学校でのESDを柱に環境学習を終え、2学期にはキャリア教育を含む進路学習(狭義の進学を考えるものではなく、将来の生き方を考える広義の学習)を中心に取り組んでいます。

具体的には図書室を活用した仕事調べとその発信・共有を行う「仕事発見プロジェクト」、資料や訪問による「高校調べ」などがあり、その一環として「研究室訪問」があります。

専門の研究者としての学問に向かう姿と人生の先輩としてなぜこの職業を選んだのかという二つの点を学ぶ目的として、お茶の水女子大の先生方にご協力いただき、研究室を訪問し、お話を聞いたりインタビューをしたりという貴重な経験をさせていただきました。生徒たち

は行く前の準備段階から楽しみにしていて、当日も「近いようで遠かったお茶大の先生が少し身近に感じられた」と大変喜んで帰ってきました。現在訪問した研究室ごとに、学んだことをまとめ、互いに他の班と共有するための準備をしています。

文責:2年学年主任
市川千恵美



3年生

東北修学旅行

修学旅行では、今年度も平泉・花巻・釜石・遠野と岩手県南部を2泊3日で訪れる、盛りだくさんの行程でした。

1日には平泉・花巻を訪れました。賢治コースと鉄器コースに分かれ、グループごとに中尊寺と高館を訪れたあと、賢治コースは宮沢賢治の人となりや文学作品についての学習をし、鉄器コースは「及源铸造」にて南部鉄器の製造、販売の見学を行いました。

2日はまず釜石を訪れ、東日本大震災の被害とその後の復興状況について学びました。釜石ではラグビーワールドカップを控えて一気に復興が進んでいるようにも感じられましたが、若い世代が町に戻ってこないなど、まだまだ課題を抱えている様子も見られました。



つとができたのではないのでしょうか。

最後のクロージング・セレモニーでは、講師の先生方から一人ひとりに修了証が渡され、生徒たちの表情はとて誇らしく見えました。名残惜しそうに先生方と話し込む様子を見て、わずかに2日間ですが、生徒たちのたくましさや柔軟さを感じられました。今回の経験をきっかけに、さらに英語学習へのモチベーションや異文化への理解を深め、広い視野を培ってほしいと願います。

文責:1年学年主任
寺本誠



2日目午後からは遠野にて民泊を行いました。戻ってきた生徒たちの顔には充実感があふれており、様々な活動を通じて、人とのつながりの大切さや、共によりよく生きるために必要なことは何かを、それぞれが感じ取ってくれたのではないかと思います。

現在は、SDGsとも関連させ、東北地方と東京都の現状や「課題を比較・検討することを切り口に、「東京のまちづくり」について自分たちにできることを考え、提案書にまとめています。3月にはその発表を行うことを計画しています。

文責:3学年修学旅行担当
大塚みずほ



附属学校園での出来事 (2019年10月~12月)

【いずみナーサリー】

10月

- 避難訓練 (地震)
- 親子で遊ぼう会
- いずみナーサリーの日 (保護者との自由昼食会)
- いずみナーサリーで遊ぼう会 (地域親子向け子育てひろば)

11月

- いずみナーサリー同窓会
- 在園児健康診断
- 個人面談

【附属幼稚園】

10月

- 運動会予行
- 運動会
- 5歳児 さつまいも掘り
- 誕生会
- 4歳児 親子で遊ぶ日
- 3歳児 遠足 (小石川公園)
- 避難訓練

11月

- 誕生会
- JICA「乳幼児ケアと就学前教育」1日研修
- 創立記念の集い

12月

- もちつき
- 終業式

【附属小学校】

10月

- 衣がえ
- 避難訓練
- 防災訓練 (教職員・5年)
- 学校説明会
- かがみ会バザー
- サツマイモ掘り (3・4年)
- あきまつり (2年)
- 学校宿泊 (3年)
- 校外学習 (1・2・4・5・6年)
- 給食試食会
- いじめ防止の授業

11月

- 避難訓練
- いじめ防止の講演会
- JICA中東・アフリカ幼児教育研修
- 音楽会
- ダイコン掘り (2・5年)

12月

- 保護者会 (各学年)
- みちる祭り (1年)
- 終業式

- 避難訓練 (火災)・初期消火訓練
- いずみナーサリーの日 (保護者との自由昼食会)
- いずみナーサリーで遊ぼう会 (地域親子向け子育てひろば)

12月

- クリスマスあそび
- 避難訓練
- いずみナーサリーで遊ぼう会 (地域親子向け子育てひろば)

【附属中学校】

10月

- 身体測定
- 生徒会選挙
- 公開研究会
- 1年郊外園 (サツマイモ収穫)

11月

- 任命式
- 全学避難訓練
- 期末テスト
- 創立記念日

12月

- マラソン大会
- 保護者会
- 2学期終業式

【附属高校】

10月

- 改修後の校舎で授業再開
- 自治会総会・選挙
- 2学期中間考査
- 台湾研修
- 3年学力テスト
- お茶大・筑波大附属高校合同キャリアカフェ
- ダンスコンクール

11月

- 3年学力テスト
- 全学避難訓練
- 福島フィールドワーク
- 2年学力テスト
- 保護者授業参観
- ASEF Class Net 授業見学
- 1年 Google 社訪問
- 創立記念日

12月

- 2学期期末考査
- お茶大キャリアガイダンス
- GPSアカデミック
- 東工大ウィンターレクチャー
- 終業式

附属学校園からのお知らせ

キャンパス点描

女性が輝くTOKYO懇話会「ガラスの天井を打ち破れ!

～女性も男性も輝く未来へ～」開催報告

2019年11月27日、本学微生物学において、「女性が輝くTOKYO懇話会」が「ガラスの天井を打ち破れ!～女性も男性も輝く未来へ～」が開催され、本学学生・教職員のほか都内在住・在勤の方などを含め約450名が参加しました。「女性が輝くTOKYO懇話会」は、東京都が女性活躍の推進について広く発信と提言を行うことを目的として2017年度から開催しており、2018年度に本学が東京都女性活躍推進大賞を受賞したことから、今年度は女性リーダー育成等に取り組んでいる本学と共同で開催することになったものです。

懇話会では、小池百合子東京都知事、室伏きみ子お茶の水女子大学長の挨拶に続き、青山美奈株式会社プリチストン先進材料企画部長、柴田裕子東海旅客鉄道株式会社人事労務課担当課長から現在の仕事なども含めて自己紹介をしていただきました。次いで、本学生活科学部卒業生である池田伸子NHKアナウンサーをモデレーターとして、「キャリア形成」「管理職として働くこと」「家庭と仕事の両立」「“ガラスの天井”を踏まえて、これまで働いてきて苦労したこと」等について出演者4名によるパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションの後、事前に参加者から寄せられた質問をもとに青山氏、柴田氏に「将来女性リーダーとして活躍するために、大学生活で身につけておいた方がよいこと、やっておいた方がよいこと」について、小池都知事に「キャスター、都知事などのキャリアを重ねられた思いなどを踏まえ、キャリア形成の上で軸となるもの」について、ご自身の思いをうかがい、最後に出演者4名から会場の方へメッセージをいただきました。

リーダーとして活躍される女性たちから勇気と自信が湧くメッセージをいただくことができ、たいへん貴重な機会となりました。

たくさんの方にご参加いただき、ありがとうございました。



海外の政府視察団が附属幼稚園を訪問しました

2019年10月1日に、幼児教育の改善に対して近年高い関心を持つマレーシア政府により派遣された地方開発省大臣を団長とする視察団が本園を訪問しました。また同年11月26日には、大規模な教育改革に取り組む中で、就学前教育を中心に日本の教育を視察するために来日した教育省大臣を団長とするジョージア政府視察団が本園を訪問しました。

両視察団に対し、遊びを重視し自主性を重んじる保育の実践をご覧い

ただき、附属幼稚園の歴史と現在、子どもを中心にした保育についてお伝えすると同時に、意見交換の時間をもちました。

官立としては日本最初の幼稚園として、今後も幼児教育に関心のある海外からの視察団を積極的に受け入れて、国内だけでなく海外の幼児教育の発展に貢献していきたいと考えています。



政府視察団附属幼稚園訪問 (マレーシア)



政府視察団附属幼稚園訪問 (ジョージア)

JICA課題別研修「乳幼児ケアと就学前教育(アフリカ・中東)」を実施しました



開講式

お茶の水女子大学は、独立行政法人国際協力機構(JICA)の委託を受け、ヨルダン、エジプト、リベリア、マダガスカル、カメルーン、サントメ・プリンシペから10名の研修員を受け入れ、2019年11月11日から12月6日まで幼児教育に関する研修を実施しました。10名の研修員はいずれも各国の幼児支援分野における行政官や視学官、指導主事など、指導的な立場の方々です。この研修は、2018～2020年度の3年計画の2年目に当たります。

国際社会においては、乳幼児期からの保護と教育を一体化させた総合的アプローチの重要性が認識され、幼児教育分野での途上国に対する支援体制が強化されてきました。しかしながら、途上国においてはECCE(early childhood care and education: 乳幼児ケアと就学前教育)分野を専門とする人材が不足している状況です。



東京おもちゃ美術館

そこで、特にECCEへのアクセスや質の改善が急務の課題となっているアフリカ・中東地域を対象に、同分野の政策レベルでの人材育成に資するために、日本の幼児教育や保育、幼児に対する支援について、その制度・政策、保育内容・保育方法、人材育成、評価などに関して、講義や視察、ワークショップを実施しました。これらを通じて幼児支援に関する研修員の知識や技能を向上させることを目標にしました。

研修後のアンケートでは、研修で掲げた6つの単元目標(①所属組織

での問題点の発見・整理、②ECD[Early Childhood Development]の概念・内容・動向、③幼児教育における格差問題とその是正策、④子どもの発達に応じた適切な保育内容・保育方法・教材作成、⑤教員養成・研修のシステム、⑥幼児教育における評価)についていずれも高い達成度が示され、満足度も高くたいへん好評でした。研修最終日には、各研修員から帰国後の行動計画(アクションプラン)が発表されました。研修員は帰国後、この行動計画に基づき、日本での研修の成果を自国で活用していくことになります。



ワークショップ「遊びを通して学ぶ」



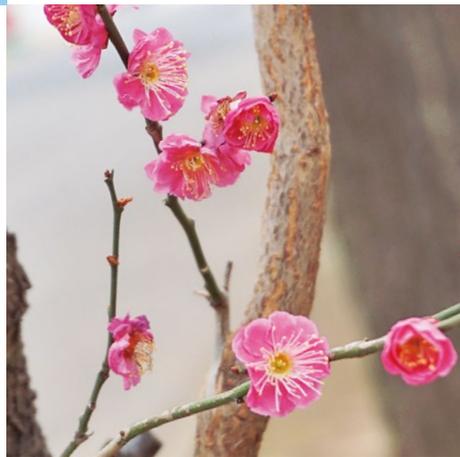
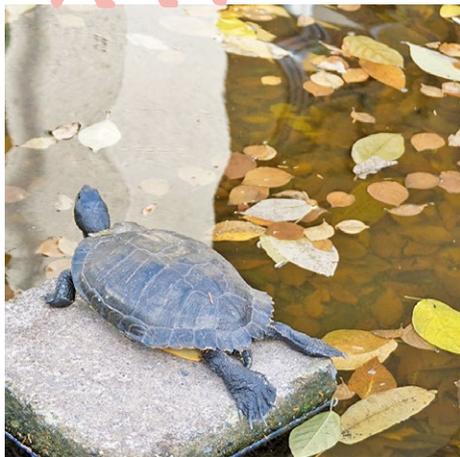
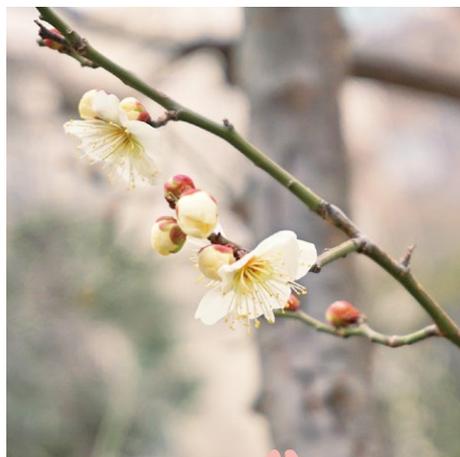
内田名誉教授講義「子ども中心の保育・幼児教育」

2019年度学生表彰式を開催しました

2019年12月17日に2019年度学生表彰式を開催しました。学生表彰は、学業・学術研究活動分野、課外活動分野等で特に顕著な業績を挙げ、かつ学界又は社会的に高い評価を受けた者、本学の名誉を著しく高めたと認められる者に対し、それを称え賞するものです。

今年度は成績優秀な学部生10名、研究において顕著な業績を挙げた大学院生4名、課外活動や社会活動において功績を挙げた1団体に対して、関係教職員臨席のもと学長より表彰状と記念品が贈られました。





お茶の水女子大学学报 第 263 号
▽発行日：2020 年 2 月 10 日
▽発行：国立大学法人お茶の水女子大学
東京都文京区大塚 2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで
企画戦略課広報企画担当

電話：03-5978-5105
FAX：03-5978-5545
E-mail：info@cc.ocha.ac.jp
URL：http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学报「GAZETTE」は、
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。